

消防救急デジタル無線共通仕様書準拠

携帯型受令機

DJ-XF5P

特定小電力ハンディトランシーバー機能付き
(総務省技術基準適合品)

取扱説明書



注意

本書の公開や放置、不用意な
廃棄やコピーを禁ず。

本機の性能を十分に発揮させるために、本書を最後までお読みください。また、読み終えた後も必ず保管してください。

補足シートや正誤表が入っている場合は、本書と合わせて保管してください。

◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

目 次	2
使用前のご注意	3
安全上のご注意	5
1. 携帯型受令機をお使いになる前に.....	11
付属品の確認	11
付属品の取り付け方	12
2. 各部の名前と機能.....	16
3. 基本操作	18
4. セットモード	21
セットモード一覧	21
運用設定	22
メイン CH 移動.....	25
録音開始／停止	25
機能設定.....	26
履歴表示.....	29
情報表示.....	29
5. 特定小電力の送受信.....	30
通信制限.....	30
通信距離.....	30
通信方法.....	31
6. 受信機能	32
音声受信.....	32
ショートメッセージの受信.....	33
発信規制信号	34
7. 便利な機能	35
チャンネルスキャン	35
キーロック	36
電池残量アイコン	36
8. 保守・参考.....	37
故障とお考えになる前に.....	37
9. 定 格.....	39

◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

■分解しないでください

本機は調整済みです。使用者が調整できる箇所はありません。絶対に分解しないでください。

■ご使用上の注意

本機は一般向けのものではありません。不用意に第三者に消防・救急無線通信の内容を漏らしたり、知り得た情報を悪用したりすると、電波法第五十九条が定める通信の守秘義務に抵触して、罰せられる恐れがあります。本機が悪用されないよう、防犯管理には十分ご配慮ください。

■納入仕様について

本機は納入先に指定された内容に沿って、予め個別にプログラムされています。プログラムによって、受令機が本書に記載のない機能を備えている場合や、本書に記載している機能が受令機に備わっていない場合があります。納入元や製造元には、納入先の指示が無い限り、設定内容を変更する権限はありません。また、使用者自身が仕様を変更することはできません。

■受信可能な信号について

本機は 260MHz 帯消防救急デジタル無線通信、従来のアナログ方式による消防救急無線通信や FM ラジオの受信のほか、特定小電力無線の送受信ができます。

■温度仕様について

DJ-XF5P の充電は 0℃～40℃の間で行ってください。この範囲以外では温度保護が働き充電しません。そのような時はエアコンを使うなどして温度を調節してください。窓付近やダッシュボード上など、直射日光が当たる場所は 80℃以上になる場合があります。設置時には十分ご配慮ください。

温度範囲	本体	性能保証：-10℃～50℃ / 動作保証：-20℃～60℃
	ニッケル水素充電電池	充電：0℃～40℃ / 放電：-10℃～50℃

■耐塵・防浸・振動・衝撃に関する外郭保護について

携帯型受令機は外郭保護等級 IP67 規格の耐塵・防浸相当品です。

耐塵：埃や塵が直ちに製品の故障に繋がらない

防浸：特定の条件で、真水が製品内部に浸透しない

ただし、充電器などの、特に外郭保護を謳っていないものは、耐塵・防浸ではありません。台風のような風圧や、流水のような水圧が掛かる場合、金属製・油性・酸や塩分・化学物質を含む等の特殊な粉塵や液体に対しては、この外郭保護性能は保証されません。このような物質で濡れたり汚れたりした時は、すぐに乾いた布で拭くなどのメンテナンスを心がけてください。部品に使われている素材は経年変化のために変質し、保護性能が低下します。外郭保護が非常に重要な場合は、定期的な保守点検をお勧めします。携帯型受令機背面のシールは絶対に剥がさないでください。耐塵・防浸を保つために必要です。このシールを覆うように別のシールなどを貼らないでください。内部の気圧調整が妨げられ、故障の原因となります。

振動や衝撃に関しては、下記のように JIS と米軍納入規格 MIL スペックに準拠した試験に合格していますが、本機を故意に乱暴に扱うことはお止めください。

・ JIS

- 衝撃：JIS C 60068-2-27

- 振動：JIS C 60068-2-6

・ MIL

MIL-STD-810G または相当の下位規格

- Shock: Method 514.6/I, IV

- Vibration: Method 516.6/I

■特定小電力無線について

特定小電力無線は国内であれば免許、資格不要で通信の相手方や目的を問わず通話できます。微弱電波なので、一般病棟や介護施設内でも使えますが、特殊医療施設、航空機内、高速鉄道の車内など、無線の使用が非常に厳しく制限されている場所では、管理者の確認をとるなどご配慮ください。

◆◆◆ 安全上のご注意 ◆◆◆

本機を正しく安全にお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損失を未然に防止するために必ずお読みください。誤った使い方で生じる内容を図記号と共に説明しています。その表示と意味は次の通りです。

表 示	表示の意味
 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

図記号	表示の意味
	しなければならないことを告げるものです。
	してはいけないことを告げるものです。

天災や人災、不測の故障などで生じた損害につきましては、弊社は一切その責任を負いかねますので、予めご了承ください。



警告

■携帯型受令機の手取り扱ひについて



イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因になることがあります。



耐塵、防浸を保証する製品でも、別途ご説明したような制限があります。流水での洗浄、真水以外の液体との接触などは故障の原因となります。



本体や充電器、アダプター類を他の物で覆うような設置は避けてください。熱がこもり、ケースが変形したり、火災の原因となることがあります。直射日光を避けて風通しの良い状態でご使用ください。



近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電・故障の原因となります。特に電池の端子が金属でショートしないようご注意ください。



警告

■充電器の手取り扱ひについて



充電器の AC アダプターは、コンセントに確実に差し込んでください。AC アダプターのプラグ部分に金具などが触れると、火災・感電・故障の原因となります。



指定以外の電圧で使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。



充電器の AC アダプターをタコ足配線しないでください。発熱・発火の原因となります。



ぬれた手で充電器の AC アダプターに触れたり、抜き差ししないでください。感電や故障の原因となります。



充電器や AC アダプターのプラグ部分に、ほこりが付着したまま使用しないでください。ショートや発熱により火災・感電・故障の原因となります。

**警告****■使用環境・条件**

万一、内部から漏れた液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。これらが目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師にご相談ください。また、その製品は必ず点検にお出してください。



万一、故障・誤動作などが原因で人命や財産が失われることがあっても、製造元及び販売元はその責任を負うものではありません。不具合を避けるため、定期的な保守点検を受けて頂くよう、お願いします。



電波環境や使用場所の状況などから通信できなかったことで発生した、逸失利益に対する責任は負いかねますのでご了承ください。



本機専用、又は弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は、理由を問わず製品保証の対象外となります。



事前の許可なくこの製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。



航空機内、航空敷地内、新幹線車両内、中継局周辺、病院内などは、平時でも受令機を含む無線機器の使用が禁止されているところがありますので、ご配慮ください。



可燃性ガスの発生場所では、電源を入れないでください。引火・爆発の原因となります。本製品は防爆仕様ではありません。



電源ケーブルやアンテナ線などのコード類は、折り曲げたり、ねじったり、傷つけたり、加熱したりしないでください。故障の原因となります。



ベルトクリップや固定金具の装着などに、標準付属品以外のネジを使うとネジが基板を傷つけたり、しっかり固定できずに落下するなどして、怪我や故障の原因となります。純正ネジは補修部品として販売していますので、通信機器担当者様にご相談ください。

警告

■異常時の処置について



以下のような異常が起きたら、まず、電池や AC アダプターを外して電源供給を止めてください。その後すぐに通信機器担当者様にご相談ください。使用者様による分解や、修理を試みることは絶対にお止めください。



■異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがするとき

■いつもと比べて異常な発熱を感じたとき

■内部に液体や異物が入ったとき

■コード類が傷んだとき（芯線の露出や断線など）

■外観に異常を見つけたとき



本製品は、雷に対する保護や性能保証は致しておりません。雷が接近している際は、なるべく AC 電源は使用しないでください。また、可能な限り屋内や車内に待避するなど、雷害に対する注意を怠らないようご配慮ください。

注意

■携帯型受令機取り扱いについて



アンテナや突起物が、目や鼻など傷付き易い部位に当たらない位置を選んで装着してください。



長期保管は、安全のため本体の電源を切り、電池を外して、充電アダプターはコンセントから抜いてください。



アンテナを持って本体を振り回したり、投げたりしないでください。けがや故障、破損の原因となります。



ツマミやキャップ、ネジ等を無理に外したり、回したりしないでください。故障の原因となります。



静電気が溜まりやすい場所や服装でイヤホンを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合があります。

⚠ 注意**■充電器の取り扱いについて**

充電器の AC アダプターを抜くときは、コードを引っ張らないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。必ず AC アダプターを持って抜いてください。



充電器の AC アダプターを熱器具に近づけないでください。火災・感電・故障・変形の原因となることがあります。

⚠ 注意**■日常のお手入れについて**

お手入れの際は、安全のため必ず本体の電源を切って、電池を取り外し、充電器をご使用の場合は、AC アダプターをコンセントから抜いてください。



汚れた場合は柔らかいきれいな布で乾拭きしてください。パーツクリーナー、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使うと外装等が変質する恐れがあります。パソコンや A V 機器用清掃器具は受令機にもお使いになれます。定期的な清掃は製品を長く正常にお使い頂くために大変有効です。

⚠ 注意**■運転中の受令機の使用について**

一部の自治体では、運転中のイヤホンの使用を制限されています。あらかじめ、ご確認ください。



運転中に携帯型受令機を手持って操作したり、ディスプレイを見続けたりしないでください。このような行為は運転中の携帯電話使用と同様に危険です。受令機の操作は必ず安全な場所に停車してから行ってください。



受令機をベルトクリップなどで体に装着して運転しないでください。アンテナや付属品が引っ掛かり、運転の支障となることがあります。



注意

■使用環境・条件



電化製品、工業機械、電子機器などの近くでは、電波障害を受けたり与えたりすることがあります。



極端に湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。



湿度の高い所や、冷たい所から急に温かい所へ移動しますと、製品に露がつく場合があります。内部が結露するとショートなど故障の原因となります。可能な限り、ご配慮ください。



ぐらついた台の上や傾いた所、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりして故障やけがの原因となることがあります。



直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色したり、火災の原因となることがあります。



調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。

1

携帯型受令機を お使いになる前に

.....付属品の確認.....

本機の標準構成は以下の通りです。納入仕様により異なる場合があります。

- ☐ 消防救急デジタル無線用携帯型受令機 DJ-XF5P
- ☐ ニッケル水素充電電池 EBP-500
- ☐ 充電器 EDC-500
- ☐ 充電器用 AC アダプター EDC-501

本機専用、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。また、他社製アクセサリに起因する不具合は、弊社で修理や改造で対応することはできません。

※アンテナについて

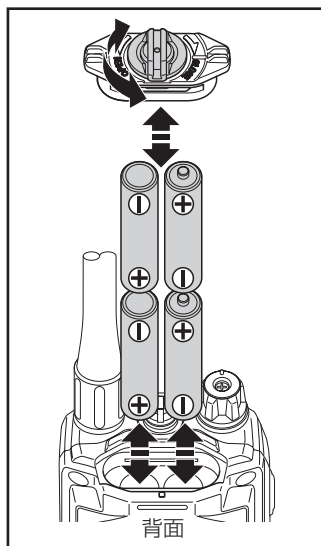
特定小電力無線機は、技術基準適合の規定によりアンテナを取り外すことができません。

- ・ 本製品のアンテナは、仕様によりアナログ無線受信、特にVHFアナログ消防救急無線は、専用のアナログ受令機よりも受信できる範囲が狭くなります。
- ・ アンテナの故障は、修理が必要です。担当の無線機器管理者様にご相談ください。

..... 付属品の取り付け方

■電池の入れ方／取り出し方

- 電池キャップのツマミを反時計回り（左）に回してキャップを開けます。
- ニッケル水素充電電池（EBP-500）、またはアルカリ単三乾電池を右図の向きで入れます。（キャップを開けると、内部にも電池の向きが記載されています。）
- ツマミを押し込みながら時計回り（右）に回してキャップを閉めます。

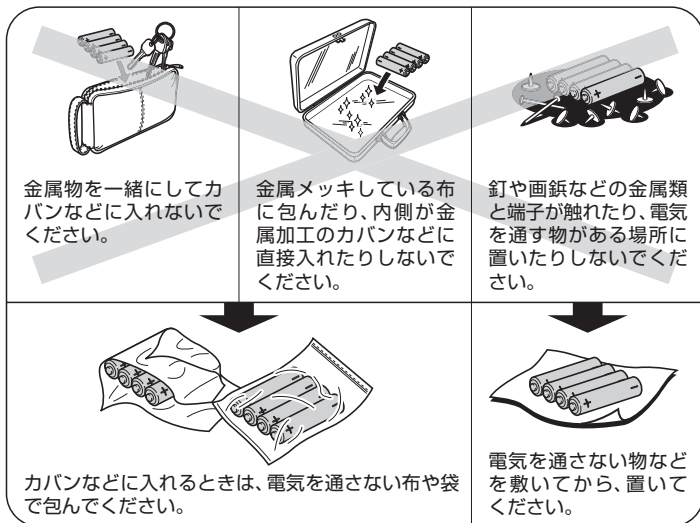


注意

- ・キャップの紛失にはご注意ください。
- ・電池の極性 [+/-] を間違えないように入れてください。
- ・長期間使用しないときは、電池を取り出してください。
- ・電池の液漏れによる故障は保証の対象外となります。
- ・マンガン乾電池は、アルカリ乾電池が入手できない非常時以外は使用しないでください。動作時間が極端に短くなるなど、製品の仕様を保証しかねます。

■ 充電電池の取り扱いについて

 充電電池を持ち運ぶときは、十分ご注意ください。ショートによって電流が急増し、発熱、発火、火傷の原因となることがあります。



- 注意**
- ・ 充電電池は出荷時には十分に充電されておりません。満充電してからお使いください。
 - ・ 充電は 0℃～ 40℃の温度範囲内で行ってください。この範囲を外れると、充電できないことがあります。
 - ・ 充電電池の改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱・破裂などの可能性があり、大変危険です。
 - ・ 充電電池の端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、発熱による火傷の原因となることがあります。
 - ・ 継続的な充電や放電状態での放置は、充電電池の劣化を早める原因になります。
 - ・ 充電電池の保存は、-10℃～ 50℃の温度範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、液漏れや金属部分の錆の原因になりますので避けてください。
 - ・ 充電電池は消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がきたものと思われます。新しいものにお取替えください。

■充電機の充電方法

付属充電器、または市販の USB 充電器と microUSB ケーブルを使用して本体の充電機を充電します。

※ USB 充電器を使用する場合は供給電流が 1A 以上のものをお選びください。

注意

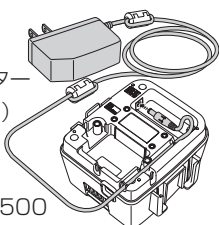
- ・ PC の USB ポート出力は電源供給能力が不足しているため使用できません。
- ・ 購入直後、または長期間使用しなかったときは、満充電してからお使いください。この充電器で市販の充電機を充電することはできません。

①充電器 (EDC-500) に使用される機器を接続してください。

付属品

AC アダプター
(EDC-501)

EDC-500

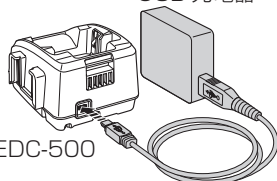


市販品

USB 充電器

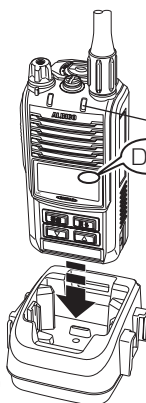
EDC-500

microUSB ケーブル



②電池キャップを閉めた受令機を充電器に差し込んでください。

EDC-500



送受信／充電 LED

ディスプレイに「DC」と表示中は、AC アダプターから給電するため、電池を消費せず使用できます。また、電池を外した状態でも充電器に差し込むことで使用できます。

電源を切って充電中は送受信／充電 LED が赤色に点灯し、充電が終わると消えます。電源が入った状態で充電すると、送受信／充電 LED は点灯しない代わりにディスプレイの電池アイコンがアニメーション表示します。



参考

- ・ 電源が入った状態で充電中、デジタル信号を受信すると緑の LED が光ります。
- ・ 充電器に載せて充電しながら受信ができます。充電しながら使っても充電時間は変わりません。

■充電電池の性質と取り扱いについて



参考

- 付属の充電電池 (EBP-500) はニッケル水素充電電池 (Ni-MH 充電電池) です。Ni-MH 電池の理想的な使い方は、「なるべく継ぎ足し充電せず、放電と満充電のサイクルで使う」で、常に充電電流を流していると早く消耗し、放電状態で長期間放置すると充電ができなくなります。このため予備の電池を備蓄されるときは、全ての電池をローテーションさせて日々実用するほうが効果的です。Ni-MH 電池を保存する時は満充電にして、少なくとも3か月程度に1度は必ず完全放電させてから満充電するメンテナンスを行ってください。
- Ni-MH 電池は理想的に使っても、少しずつ消耗します。
- 電池残量がない状態から数分程度充電しただけの場合でも、電池残量アイコンは「十分に残量あり」の状態を表示します。これは、Ni-MH 電池の性質上、一時的に起こる現象で、実際の電池残量は僅かです。残量なしの状態から満充電までは最長 10 時間です。(EDC-500 使用時)

注意

- 本機は電源を切っていても待機電流によって電池残量が減少します。長期間使用しない場合はご注意ください。
- 寒冷状態では、充電電池が一時的に不活性化して使用できなくなることがあります。保温にご留意ください。
- 本体、充電器は、手垢や埃が付き易いので、時々清潔で乾いた布やOA 機器清掃用ブラシ等で清掃してください。汚れていると接触不良からくる充電トラブルの原因となることがあります。
- 充電電池 (EBP-500) は本機専用の電池です。純正の専用充電器以外の物で充電を試みることは絶対におやめください。
- 充電時に異常な電圧が加わった場合、本体のディスプレイに警告文が反転表示されます。

* このような警告文が表示された場合は、AC アダプター、または充電器が故障している可能性があります。また、この状態が継続されると、本体が破壊される可能性があります。直ちに本体を充電器から取り外してください。
正常に充電されなければ、点検にお出しく下さい。

[電圧異常]
本体を充電器から
取り外し、充電器
を確認して下さい

2

各部の名前と機能

※本書中、「長く押す」「長押し」は、説明する動作が始まるまでキーを押したままにすることを表します。「押す」はしっかりとキーを一度押してから、すぐに指を放すことを表します。

■本体

電源／音量ツマミ

電源を入れるには時計回り（右）に「カチッ」と音が鳴るまで回します。更に回すと音量を上げます。音量を下げるには反時計回り（左）に回します。更に回転が止まるまで回すと電源が切れます。

バンド LED

青色：基地局受信
 橙色：移動局受信
 バンドスキャン時は青色と橙色が交互に点灯します。

PTT/ 短縮キー

特定小電力を送信するには、アナログバンド設定後、キーを押しながらマイクに向かって話します。

マイク

この部分はふさがなくてください。交信の際に相手側に声が聞こえにくくなります。

SP/MIC 端子

防水のためキャップで塞いでいます。取り外しはマイナスドライバーで回してください。接続するスピーカーマイクは弊社の EMS-71 をご使用ください。（ねじ込み式）キャップの紛失にはご注意ください。

アンテナ

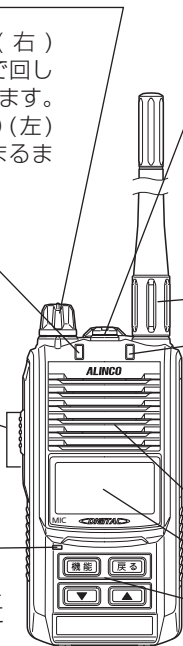
送受信／充電 LED

デジタル信号を受信中は緑色に点灯し、特定小電力送信時、または電源オフ時の充電中は赤色に点灯します。

スピーカー

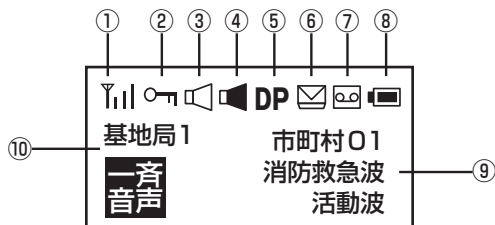
ディスプレイ

キーボード



キー名称	機 能
機能	「機能」キーを押すとメニューを開きます。メニュー画面で押すと、その項目を選択します。また、初期画面で長押しするとキーロックを設定します。再度長押しするとキーロックを解除します。
戻る	メニュー画面等で押すとひとつ前の画面に戻ります。初期画面で押すとバンド、またはバンクを切り替えることができます。
▲ / ▼	初期画面ではチャンネルの切り替え、メニュー画面ではカーソルを上下に移動します。

■ディスプレイ表示



説 明		
①		受信したデジタル電波の強さを三段階で表示します。 電波がないときは「Y」だけを表示します。
②		キーロック設定時に表示します。
③		内蔵スピーカー有効時に表示します。
④		外部イヤホン、スピーカーマイク有効時に表示します。
⑤	DP	デジタル・アナログのミュート状態、優先状態を表示します。 一文字目 A: アナログ D: デジタル 二文字目 M: ミュート P: 優先
⑥		未読のショートメッセージがある場合に表示します。
⑦		未聴の録音データがある場合に表示します。
⑧		電池残量を三段階で表示します。電源オンの時で充電中は電池残量アイコンが変化します。残量が少ないときは「」を表示します。また、電池で動作していない時は「DC」を表示します。
⑨	市町村01 消防救急波 活動波	上段にアナログ CH 名 (受信時に反転表示)、中段にバンク名、下段にデジタル CH 名を表示します。ただし、デジタル個別信号を受信時は上段に発呼者名、中段に被呼者名を表示します。
⑩	基地局1 一斉音声	デジタル信号の発信元の名前や、受信の種類を表示します。

注意

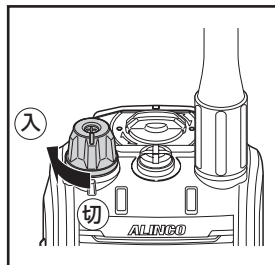
・機能は納入仕様によって変更、または削除されている場合があります。

3

基本操作

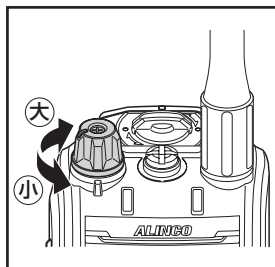
■電源を入れる / 切る

電源 / 音量ツマミを時計回り（右）に回して電源を入れます。電源を切るときは、反時計回り（左）に回転が止まるまで回します。



■音量を調整する

電源 / 音量ツマミを時計回り（右）に回して音量を大きくします。音量を小さくするには反時計回り（左）に回します。



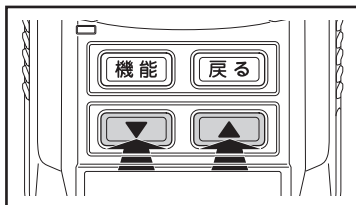
参考

- ・目安になる信号がないときはFM ラジオ (P.23) を受信しながら電源 / 音量ツマミを調整すると適切に設定できます。
- ・イヤホンで聞くときは音量を最小にしてから調整を始めてください。
- ・静電気が溜まりやすい場所や服装でイヤホンを装着するとき、耳に静電気ショックを感じる場合があります。

■チャンネルを切り替える

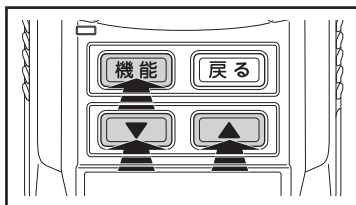
●デジタルチャンネルの切り替え

デジタルチャンネルを切り替えるには、初期画面で「▼」「▲」キーを押します。



●アナログチャンネルの切り替え

アナログチャンネルを切り替えるには、初期画面で「機能」キーを押しながら「▼」「▲」キーを押します。



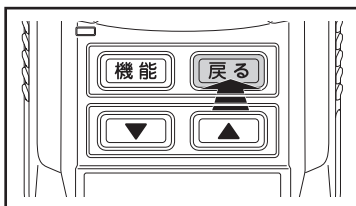
※「機能」キーを押しはじめてから「▼」「▲」キーを押すまでに間隔が空くと、キーロック状態になってしまいます。キーロック状態になるまでの時間は変更することができますので必要に応じて時間を選択してください。(P.28)

■デジタルバンドを切り替える

納入仕様により、機能が異なる場合があります。

仕様①

初期画面で「戻る」キーを押すたびに基地局受信と移動局受信を切り替えます。



長く押すとデジタルバンドスキャンに切り替えます。デジタルバンドスキャンとは、基地局受信と移動局受信を交互にスキャンして信号が出ているデジタルバンドに切り替える機能です。再度長押しすると、デジタルバンドスキャンを中止します。デジタルバンドスキャン中は、バンドLED が青色と橙色に交互に点灯します。

仕様②

押すたびにデジタルチャンネルバンクを切り替えます。

※ アナログバンドの切り替えは、セットモードをご参照ください。(P.23)

■音声を受信する

音声信号を受信すると、送受信／充電 LED が緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイに「」アイコンを表示します。この時、受信条件を満たしていると音声が届きます。

■ショートメッセージを受信する

ショートメッセージ信号を受信すると、送受信／充電 LED が緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイに「」アイコンを表示します。この時、受信条件を満たしているとショートメッセージを受信します。

■設定を変更する

設定を変更するには、「機能」キーを押してセットモード (P.21) を開きます。設定を変更したい項目を「▼」「▲」キーで選択し、「機能」キーで決定してください。

※受信条件について

送信を行う局がグループ通信機能などを使い、特定の局と通信を行う場合、自局がその対象でなければ受信できません。

4

セットモード

..... セットモード一覧

運用設定	CHバンク選択	最大 16 バンク (256 チャンネル)		
	グループ設定	グループモード	シングル マルチ	
		グループ選択	シングルモード	最大 62 グループ
	マルチモード			
	アナログ受信	バンド選択	オフ、特定小電力、消防無線 署活系無線、FM ラジオ	
		ボリューム	レベル 1 ～レベル 3	
		スケルチレベル	オープン、レベル 1 ～レベル 5	
		トーンスケルチ	オフ、1 ～50	
	優先受信設定	デジタル優先、アナログ優先、同時受信		
	ミュート設定	ミュートオフ、アナログミュート、デジタルミュート		
送信設定	送信出力設定	High、Low		
	エンドビー	オフ、オン		
	SP/MIC 設定	本体無効、本体 PTT 有効、本体有効		
メイン CH 移動	-	-		
録音開始／停止	-	-		
機能設定	スピーカー設定	内蔵スピーカー、外部イヤフォン 内蔵＋外部、自動切替		
	CH スキャン設定	デジタル	タイマー、ビジー	
		アナログ		
	自動機能設定	SM 自動表示	オン、オフ	
		自動録音		
	操作音設定	オフ、レベル 1 ～レベル 5		
	ディスプレイ	LCD ライト	オフ、オン、5 秒	
		キーライト		
		コントラスト	レベル 1 ～レベル 10	
	短縮キー設定	LED ランプ	オン、オフ	
		オフ、D バンク切替、A バンド切替、優先受信切替 ミュート切替、録音開始／停止、メイン CH 移動		
キーロック時間	1 秒、3 秒、5 秒			
履歴表示	充電設定	オン、オフ、待受け時オン		
	SM 履歴	履歴 1 ～履歴 10		
	録音履歴			
	履歴消去	SM 履歴消去	消去する、消去しない	
録音履歴消去				
情報表示	装置情報	装置情報 0000 ～装置情報 1023		
	団体情報	団体情報 0000 ～団体情報 1023		

※ この機能は納入仕様によって変更、または削除されている場合があります。

..... 運用設定

■CHバンク選択

本機に設定されているバンクを切り替えます。

本機はバンクを 16 個持っており、CH バンク選択画面には、登録されているバンクを表示します。選択中のバンクは「◎」マークによって示されます。

■グループ設定

本機に登録されているグループ番号から、受信するグループを選びます。

・グループモード

シングル：シングルモード有効時、選択した 1 つのグループから受信します。

マルチ：マルチモード有効時、選択した全てのグループから受信します。

・グループ選択

シングルモード：受信するグループをどれか 1 つ選びます。選択中のグループは「◎」マークによって示されます。

マルチモード：受信するグループを複数選びます。選択中のグループは「○」マークによって示されます。

■アナログ受信

受信するバンドの選択や、ボリューム、スケルチレベル、トーンスケルチを設定します。

●バンド選択

特定小電力、消防無線、署活系無線、FM ラジオの4種類の中から選んだ後、チャンネルを選びます。何も受信しない場合はオフを選びます。

* 受信できるチャンネルや選択受信設定等は、納入仕様に従いあらかじめ登録されています。

市販のアナログ受信機のように、自由にバンド内を受信することはできません。

選択バンド	チャンネル（周波数）	
オフ	なし	
特定小電力	最大 48 チャンネル	
消防無線	最大 126 チャンネル	
署活系無線	最大 80 チャンネル	
FM ラジオ	TUNING	65 ~ 89.9MHz
	最大 6 チャンネル	

●ボリューム

デジタル受信の音量と比べてアナログ受信の音量が大きい時などに設定します。音量をレベル 1 ～レベル 3 の 3 段階から選択します。

「▼」キーまたは「▲」キーを押して適切な音量に調整してください。

●スケルチレベル

スケルチをオープン、レベル 1 ～レベル 5 の 6 段階から選択します。

スケルチとは信号のないときに聞こえる雑音をなくす機能です。

「▼」キーまたは「▲」キーを押して適切なスケルチに調整してください。調整したスケルチは各バンドで保持されます。バンド選択がオフの場合は各バンドのスケルチを変更できます。

●トーンスケルチ

FM ラジオ以外の選択受信に使用されます。現在の受信チャンネルの トーンスケルチをオフ、1 ～ 50 から選択します。(P.43)

※この機能は納入仕様によって変更、または削除されている場合があります。 23

■優先受信設定

アナログとデジタル、どちらの信号を優先的に受信するか選択します。

デジタル優先…デジタル信号を優先して受信します。

アナログ優先…アナログ信号を優先して受信します。(FM ラジオは除く)

同時受信 …両方同時に受信します。同時に声が聞こえて聞き取りにくいことがあります。

■ミュート設定

ミュート（消音）設定しているときの動作を指定できます。

ミュートオフ …通常状態です。

アナログミュート…アナログ音声をミュートにします。

デジタルミュート…デジタル音声をミュートにします。

注意

- アナログミュートでも FM ラジオはミュートになりません。
- デジタルミュートを選択するとデジタル消防無線が聞こえません。
- 電源を切るとミュートオフになります。

■送信設定

特定小電力の送信設定をします。

●送信出力設定

特定小電力の送信出力を設定します。

High…通常状態です。(10mW)

Low …至近距離でご使用になる場合に設定します。(1mW)

●エンドビー

送信終了時に「ピッ」と短いピープ音を鳴らして送信の終わりをわかりやすく伝える機能です。

オフ：無効

オン：有効

● SP/MIC 設定

スピーカーマイク接続時の本体の「PTT/ 短縮」キー、マイクの有効状態を設定します。

本体無効 : 本体の「PTT/ 短縮」キー、マイクは無効です。

本体 PTT 有効: 本体の「PTT/ 短縮」キーが有効、マイクは無効です。

本体有効 : 本体の「PTT/ 短縮」キー、マイクは有効です。

.....メイン CH 移動.....

この機能を選択すると現在のチャンネルから設定されたメインチャンネルへ瞬時に移動します。また、メインチャンネルはバンクごとに設定されています。

※ この機能は納入仕様によって異なります。

.....録音開始／停止.....

受信した音声を録音します。録音するには、あらかじめセットモードから録音開始 / 停止を選択、決定しておきます。録音中はディスプレイに「」アイコンが点滅します。録音機能を停止するには再度、録音開始 / 停止を選択、決定します。未聴の録音がある場合、「」アイコンが点灯します。録音は 1 件につき 60 秒まで、自動録音 (P.27) と合わせて 10 件保存します。

機能設定

■スピーカー設定

受信した音声や各種警告音の出力先を選びます。

内蔵スピーカー：内蔵スピーカーから鳴らします。ディスプレイ上部には「」アイコンを表示します。（イヤホンやスピーカーマイクを付けても音が聞こえません）

外部イヤフォン：SP/MIC 端子から鳴らします。ディスプレイ上部には「」アイコンを表示します。（イヤホンやスピーカーマイクを外しても本体から音が聞こえません）

内蔵＋外部：内蔵と外部両方から鳴らします。ディスプレイ上部には「 」アイコンを表示します。

自動切替：オプション品をつなぐと自動で認識して、SP/MIC 端子から鳴らします。通常は内蔵スピーカーが鳴ります。

注意

- 出荷時は自動切替になっています。
- 本機から音が出ないときは、故障を疑う前に上記設定をチェックしてください。

■CH スキャン設定

デジタル、アナログのそれぞれでチャンネルスキャン（ P.35）停止後の、スキャン再開条件を選びます。

タイマー：信号があっても 5 秒経過するとスキャンを再開します。

ビジー：受信している信号がなくなればスキャンを再開します。

■自動機能設定

・SM 自動表示

オン：ショートメッセージを受信したとき、自動的に受信したメッセージをディスプレイに表示します。

オフ：ショートメッセージを受信しても自動表示は行いません。

ディスプレイ上部に未読メッセージがあることを示す「」アイコンを表示します。

・自動録音

オン：発信規制情報のうち、出動指令と通信規制の情報を受信した時、自動的に録音状態となり、受信した音声を録音します。

オフ：自動録音しません。この設定に関係なく、録音開始/停止 (P.25) で録音を開始していると、受信した音声を録音します。録音は 1 件につき 60 秒まで、10 件保存します。10 件を越える古い録音は自動的に消去され、新しい録音に置き換わります。

■操作音設定

キー操作をした時や起動した時、受信した時に出る音をビープ音と呼びます。ビープ音の音量はオフ、レベル 1 ～レベル 5 の間で設定できます。レベル 5 が音量最大です。オフはビープ音は鳴りませんが、喚起音 (P.33) は鳴ります。

■ディスプレイ

LCD ライト、キーライト、コントラスト、LED ランプの動作を設定します。

・LCD ライト、キーライト

オフ：バックライトは常時消灯します。

オン：バックライトは常時点灯します。(電池が早く減るのでご注意ください。)

5 秒：バックライトはキー操作、またはデジタル信号受信時に点灯し、操作終了 5 秒後に消灯します。

・コントラスト

コントラストはレベル 1 ～ レベル 10 の間で設定できます。

値が大きくなる程、文字が濃くなります。

・LED ランプ

LED ランプのオン、オフの切り替えができます。

電源オフ時に充電している場合はオフ選択時でも送受信／充電 LED は赤色に点灯します。

■短縮キーの割り当て

「PTT/ 短縮」キーに以下の機能を割り当てることができます。この機能は特定小電力を選択時にご使用なれません。

- ・ オフ
- ・ D(デジタル) バンク切替
- ・ A(アナログ) バンド切替
- ・ 優先受信切替
- ・ ミュート切替
- ・ 録音開始／停止
- ・ メイン CH 移動

■キーロック時間

「機能」キーを長押しした際に、キーロック状態になるまでの時間を設定することができます。1 秒、3 秒、5 秒の 3 パターンから選ぶことができます。

■充電設定

付属充電電池 (EBP-500) を充電する際の条件を設定します。初期設定はオンです。

オン : 常時充電します。付属充電器、または供給電流が 2A 以上の USB 充電器をご使用の場合の設定です。

オフ : 充電しません。特殊な事情がある場合を除き、この設定にはしないでください。

待受時オン : 受信待受時のみ充電します。1A 以上 2A 以下の USB 充電器を使用する場合のみこの設定にしてください。

履歴表示

■SM 履歴

ショートメッセージの履歴を最新のものから最大 10 件表示します。10 件を超えた分は古いものから消去されます。「▼」「▲」キーを押して履歴を選択、「機能」キーで決定すると表示します。未読のメッセージには「!」マークを表示します。

■録音履歴

録音履歴を最新のものから最大 10 件表示します。10 件を超えた分は古いものから消去されます。「▼」「▲」キーを押して履歴を選択、「機能」キーで決定すると録音を再生します。再生中に「機能」キーを押すと再生を中止します。未聴のメッセージには「!」マークを表示します。

■履歴消去

- ・ SM 履歴消去 消去する：ショートメッセージの履歴を全て消去します。
消去しない：何も消去しません。
- ・ 録音履歴消去 消去する：録音履歴を全て消去します。
消去しない：何も消去しません。

情報表示

■装置情報

本機に登録されている受令機情報、他局情報を表示します。

■団体情報

本機に登録されている自他の団体情報を表示します。

5

特定小電力の送受信

特定小電力無線は、下記のような通信制限機能の搭載が義務付けられています。

通信制限

■3分制限（3分以上は連続で送信できません）

10秒前に警告音が鳴ります。通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。中継通信の場合も連続した中継動作が3分を越えるとタイムアウトします。

注意

- ・使用中のチャンネルで他の通話がなければ、タイムアウト後に約2秒経過することで通話を再開できます。

■キャリアセンス（受信中は送信できません）

一定の強さ以上の信号を受信しているときは「PTT/短縮」キーを押しても送信できません。受信中に「PTT/短縮」キーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。

注意

- ・操作音をOFFにしているときアラーム音は鳴りません。

通信距離

通信できる距離は周囲の状況によって大きく異なります。

- ・海上、山頂など条件のよい所：2km またはそれ以上
- ・河原など障害物のない平地：500m～1km 程度
- ・見通しのよい道、郊外の住宅地：500m 程度
- ・市街地のような障害物の多い所：200m 程度

注意

- ・Low 出力時は、通話できる距離は極端に狭くなります。
- ・建物の中は、構造によって大きく変わります。

..... 通信方法

セットモード「アナログ受信」(P.23) の「バンド選択」において「特定小電力」を選択します。各チャンネルの周波数は定格 (P.42) に記載しています。

■ 交互通話

チャンネルを L01 ～ L09、または B01 ～ B11 の中で交信相手と同じにします。

- ・ 受信する： 受信中はディスプレイのアナログバンド領域が反転表示し、スピーカーから相手の声が聞こえます。
- ・ 送信する： 送信するには受信状態でないことを確認した後、本体側面の「PTT/ 短縮」キーを押している間送信します。

■ 中継通話

交互通話では電波が届かない場所にいる相手と中継器を介して通話することができます。チャンネルを L10 ～ L18、または B12 ～ B29 の中で交信相手と同じにします。

- ・ 受信する： 受信中はディスプレイのアナログバンド領域が反転表示し、スピーカーから相手の声が聞こえます。
- ・ 送信する： 送信するには受信状態でないことを確認した後、本体側面の「PTT/ 短縮」キーを押した直後「ピピッ」という音が鳴り、押している間送信します。

注意

- ・ 中継機能を使用するには、別途弊社製の中継器が必要です。
- ・ 中継用チャンネルでは 440MHz 帯で送信、421MHz 帯で受信となります。
別売中継器の帯域設定は B にしてください。
- ・ 中継用チャンネルでは、子機同士の直接通話はできません。それぞれの機器が至近距離にあると誤動作をするおそれがあります。子機—中継器間、子機—子機間は 10m 以上離してください。

6

受信機能

受信バンドを切り替え (P.19) て、どの局から信号を受信するかを決めます。

基地局受信：基地局からの音声、移動局から基地局を経由した音声、ショートメッセージ、発信規制信号を受信します。

移動局受信：移動局から送信された音声を直接受信します。

バンドスキャン：基地局受信と移動局受信を交互に切り替えます。

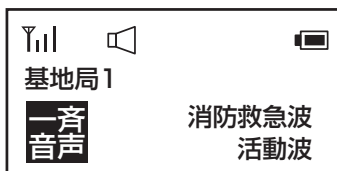
音声受信

基地局または移動局からの音声を受信すると、次のように動作します。

- ①送受信／充電 LED が緑色に点灯します。
- ②ディスプレイに「一斉」「音声」文字を表示します。
- ③発信元の名称を表示します。

※発信元の装置情報が本機に登録されていない場合は、発信者番号を表示します。

- ④受信した音声をスピーカー、または SP/MIC 端子から鳴らします。



- デジタル通信は、アナログ通信に比べてフェージングの影響を受けやすく、走行中の車両からの通信などは途切れて聞こえがちな事があります。

..... ショートメッセージの受信

基地局または移動局からショートメッセージを受信すると、次のように動作します。

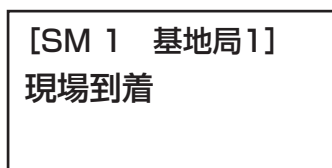
- ①送受信／充電 LED が緑色に点灯します。
- ②ディスプレイに「一斉」「SM」文字を表示します。
- ③発信元の名称を表示します。

※発信元の装置情報が本機に登録されていない場合は、発信者番号を表示します。

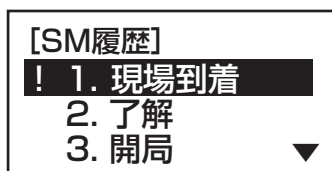
- ④「ピポッ」という音が鳴り、ショートメッセージを受信し終わったことを知らせます。



SM 自動表示 (P.27) をオンに設定すると、受信したショートメッセージを自動的にディスプレイに表示します。受信したメッセージがディスプレイに納まらなかった場合は、ディスプレイ右側に表示の続きがあることを示す「▼」マークを表示します。続きのメッセージを表示するには、「▼」キーを押して、画面をスクロールします。



受信したショートメッセージは SM 履歴 (P.29) に保存されます。



●●●●●●●●●● 発信規制信号 ●●●●●●●●●●

基地局から発信規制信号を受信すると、次のように動作します。

- ①送受信／充電 LED が緑色に点灯します。
- ②ディスプレイに規制情報を表示します。

※規制情報によってはディスプレイに表示されないものがあります。

- ③規制情報に対応したブザーやチャイムの喚起音を鳴らします。



発信規制情報	情報詳細	ディスプレイ表示	喚起音
出動指令	火災出動	あり	警報ブザー (ファウー)
	救急出動	あり	救急車サイレン (ピーポーピーポー)
	救助出動	あり	警報音 (ピロロン)
	連絡	あり	チャイム (ピンポンパンポン)
通信規制	発信規制	あり	アラーム (ブーウブーウッ)
緊急信号	緊急信号	なし	仕様による
強制切断	強制切断	なし	非常ベル (ピポピポピポピボン)



参考

- ・自動録音 (P.27) をオンに設定すると、次の条件において発信規制中に送信された音声を録音します。
- ・出動指令情報を受信した時
- ・通信規制情報を受信した時

7

便利な機能

..... チャンネルスキャン

チャンネルスキャンとは、信号を受信できるチャンネルを自動で探して、信号を見つけたチャンネルで受信する機能です。

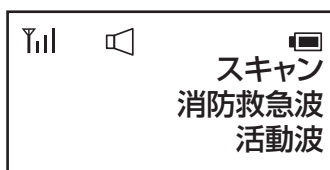
■チャンネルスキャン（デジタル）

「▼」「▲」キーどちらかを長押しします。チャンネルスキャンが開始されると、ディスプレイのチャンネル名の部分に「**スキャン**」を表示します。チャンネルスキャン状態を終了するには「戻る」キーを押します。



■チャンネルスキャン（アナログ）

「機能」キーを押しながら「▼」「▲」キーどちらかを長押しします。チャンネルスキャンが開始されると、ディスプレイのアナログバンドの部分に「スキャン」を表示します。チャンネルスキャン状態を終了するには「機能」キーを押しながら「戻る」キーを押します。

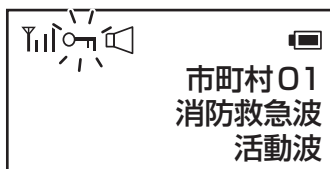


・「機能」キーを押しはじめてから「▼」「▲」キーを押すまでに間隔が空くと、キーロック状態になってしまいます。キーロック状態になるまでの時間は変更することができますので必要に応じて時間を選択してください。(P.28)

..... キーロック

キーロックは誤ってキーが操作されることを防ぐ機能です。「機能」キーを長押しするとキーロックが設定され、ディスプレイに「」アイコンを表示します。この状態では電源のオン/オフや音量調整を除いて、キー操作は何もできなくなります。解除するには、もう一度「機能」キーを長押しして「」アイコンを消します。

※キーロック状態になるまでの時間は変更することができます。(P.28)



..... 電池残量アイコン

電池残量アイコンは、電池の残量を表示します。残量表示が空になっているときは、電池を交換してください。付属品の充電電池を使用している場合は充電してください。

 電池の残量が十分にあります。

 電池の残量がまだあります。

 電池の残量が少なくなっています。交換、または充電してください。



8

保守・参考

.....故障とお考えになる前に.....

保守点検をご依頼になる前に、一度ご確認ください。

■携帯型受令機

症 状	原 因	処 置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	電池が接触不良を起こしている。	端子の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で取り除く。
	電池残量が少ない。	電池を交換、充電する。＊
	電池の向きが逆。	電池の向きを確認。
スピーカーから音が出ない。	音量が小さすぎる。	適切な音量に設定する。
	スピーカー設定が適切でない。	適切な設定に変更する。
	ミュート状態になっている。	ミュート設定を解除する。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池残量が少ない。	電池を交換、充電する。＊
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
異常な表示になっている。	CPU が誤動作している。	電池を取り外し電源を入れ直す。
充電しない。	充電端子が汚れている。	充電端子の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で取り除く。
	充電池が入っていない。	充電池を入れる。＊
	電池キャップが外れている。	電池キャップの確認。
本体のディスプレイに「電圧異常」と表示される。	受令機に過電圧が加わっています。	すぐに本体を引き抜き AC アダプターと充電器をご確認ください。
受信できない。	電波が弱い。	電波が強い所へ移動する。
	チャンネルが合っていない。	チャンネルを合わせる。
特定小電力が送信できない	3 分制限状態になっている。	2 秒待機する。
	キャリアセンスが動作している。	相手の送信が終わるまで待機する。

＊充電は弊社充電池 (EBP-500) を装着しているとき以外しないでください。 37

■修理について

- ・ 修理依頼は自治体組織の通信機器担当者様を通じて、納入元にご依頼ください。
- ・ 修理用部品の最低保有年数は、製造終了後 9 年です。従って保守・修理対応期間も 9 年となっております。
- ・ 保守や点検の対応期間を超えた場合は、同等品との有償交換や、お買い換えのご案内をさせていただきます。



定格

※記載の無い事項についても共通仕様書に準拠しています。

■一般仕様

受信周波数	260MHz 帯 消防救急無線周波数	
周波数ステップ	6.25KHz	
アクセス方式	SCPC	
無線変調方式	π /4 シフト QPSK	
変調伝送速度	9.6kbps	
音声符号化速度	6.4kbps	
受信内容	音声 / ショートメッセージ / データ	
電源電圧	4.8V DC (EBP-500) または 6.0V DC (アルカリ単三乾電池)	
消費電流	待受時 : 0.3A 以下 (アナログオフ時) 待受時 : 0.38A 以下 (アナログオン時) 特定小電力送信時 : 0.40A 以下 受信最大出力時 : 0.5A 以下	
電池使用時間	ニッケル水素充電電池	8時間以上 (受信 1 : 待受 19、LED ランプオフ、アナログオフ時)
	アルカリ単三乾電池	6時間以上 (受信 1 : 待受 19、LED ランプオフ、アナログオフ時)
外形寸法	H 115mm × W 58mm × D43mm	
質量	240 g 以下 (アンテナを含む)	
温度範囲	性能保証 : -10℃ ~ 50℃ 動作保証 : -20℃ ~ 60℃	
湿度範囲	95% 以下 (35℃)	
防水性	IP67	
対環境性	RoHS 適合	

定 格

■電気的特性

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数	第一：21.7MHz 第二：455KHz
受信感度	スタティック (BER= 1×10^{-3}) : 0dB μ V 以下 フェージング (BER= 3×10^{-3}) : 5dB μ V 以下
スプリアスレスポンス	53dB 以上
隣接チャンネル選択度	42dB 以上
相互変調特性	53dB 以上
副次発射強度	4nW 以下
筐体輻射	4nW 以下 (1GHz 以下) 20nW 以下 (1 ~ 3GHz)
音声出力	0.5W 以上 (音量最大時)

■充電電池

電池種別	ニッケル水素電池
定格容量	2400mAh
公称電圧	1.2V
充電電流	約 240mA
放電終止電圧	1.0V
使用温度範囲	充電：0℃～40℃ 放電：-10℃～50℃
質量	約 30 g

■充電用スタンド仕様

充電方式	定電流充電
入力電圧	5.0 ～ 7.0V DC
充電電圧	7.0V
充電電流	約 240mA
充電時間	最長 10 時間
バッテリー接続端子	+/-
DC 入力端子	単体用 DC ジャック (EIAJ RC-5320A) , Micro USB
使用温度範囲	0 ～ 40℃
外形寸法	W 97mm × D 100mm × D 61mm

■AC アダプター

定格入力電圧	AC100V ～ 240V
入力周波数	50/ 60Hz
定格入力電流	400mA (最大)
出力電圧	6.0V DC
最大出力電流	2.5A

■特定小電力無線

送受信周波数	レジャー チャンネル	421.8125 ～ 421.9125MHz (受信) 422.2000 ～ 422.3000MHz 440.2625 ～ 440.3625MHz (送信) (12.5kHz ステップ)
	ビジネス チャンネル	421.5750 ～ 421.7875MHz (受信) 422.0500 ～ 422.1750MHz 440.0250 ～ 440.2375MHz (送信) (12.5kHz ステップ)
電波形式		F3E (FM)
送信出力		10mW、1mW
受信感度		－ 6.0dB μ V EMF 以下 (12dB SINAD)
通信方式		単信方式、半複信方式

—— 交互通話チャンネル ——

■レジャーチャンネル

	送受信
L01	422.2000MHz
L02	422.2125MHz
L03	422.2250MHz
L04	422.2375MHz
L05	422.2500MHz
L06	422.2625MHz
L07	422.2750MHz
L08	422.2875MHz
L09	422.3000MHz

■ビジネスチャンネル

	送受信
B01	422.0500MHz
B02	422.0625MHz
B03	422.0750MHz
B04	422.0875MHz
B05	422.1000MHz
B06	422.1125MHz
B07	422.1250MHz
B08	422.1375MHz
B09	422.1500MHz
B10	422.1625MHz
B11	422.1750MHz

—— 中継通話チャンネル ——

■レジャーチャンネル

	受信	送信
L10	421.8125MHz	440.2625MHz
L11	421.8250MHz	440.2750MHz
L12	421.8375MHz	440.2875MHz
L13	421.8500MHz	440.3000MHz
L14	421.8625MHz	440.3125MHz
L15	421.8750MHz	440.3250MHz
L16	421.8875MHz	440.3375MHz
L17	421.9000MHz	440.3500MHz
L18	421.9125MHz	440.3625MHz

■ビジネスチャンネル

	受信	送信
B12	421.5750MHz	440.0250MHz
B13	421.5875MHz	440.0375MHz
B14	421.6000MHz	440.0500MHz
B15	421.6125MHz	440.0625MHz
B16	421.6250MHz	440.0750MHz
B17	421.6375MHz	440.0875MHz
B18	421.6500MHz	440.1000MHz
B19	421.6625MHz	440.1125MHz
B20	421.6750MHz	440.1250MHz
B21	421.6875MHz	440.1375MHz
B22	421.7000MHz	440.1500MHz
B23	421.7125MHz	440.1625MHz
B24	421.7250MHz	440.1750MHz
B25	421.7375MHz	440.1875MHz
B26	421.7500MHz	440.2000MHz
B27	421.7625MHz	440.2125MHz
B28	421.7750MHz	440.2250MHz
B29	421.7875MHz	440.2375MHz

■トーンスケルチ周波数一覧

番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数	番号	周波数
1	67.0Hz	16	114.8Hz	31	192.8Hz	46	196.6Hz
2	71.9Hz	17	118.8Hz	32	203.5Hz	47	199.5Hz
3	74.4Hz	18	123.0Hz	33	210.7Hz	48	206.5Hz
4	77.0Hz	19	127.3Hz	34	218.1Hz	49	229.1Hz
5	79.7Hz	20	131.8Hz	35	225.7Hz	50	254.1Hz
6	82.5Hz	21	136.5Hz	36	233.6Hz		
7	85.4Hz	22	141.3Hz	37	241.8Hz		
8	88.5Hz	23	146.2Hz	38	250.3Hz		
9	91.5Hz	24	151.4Hz	39	69.3Hz		
10	94.8Hz	25	156.7Hz	40	159.8Hz		
11	97.4Hz	26	162.2Hz	41	165.5Hz		
12	100.0Hz	27	167.9Hz	42	171.3Hz		
13	103.5Hz	28	173.8Hz	43	177.3Hz		
14	107.2Hz	29	179.9Hz	44	183.5Hz		
15	110.9Hz	30	186.2Hz	45	189.9Hz		

- アルインコの社名とロゴは国内外で商標として登録されています。
- 本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる場合があります。
- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。乱丁・落丁はお取り替え致します。

製造元：

アルインコ株式会社 電子事業部

東京支店 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888
大阪支店 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコービル2階 TEL.092-473-8034

- *使用方法、保守・点検などアフターサービスに関するお問い合わせは、まず、本製品を管理される自治体組織の通信機器担当者様にご相談ください。弊社営業所にお電話頂いても、納入時の設定や保守契約の内容など、すぐに分かりかねることがあるためです。ご理解の程、お願い致します。
- *管理上大きな支障を来しますので、全ての銘板、ラベル類は絶対に剥がしたり、貼り替えたり、意図的に汚したり、印字を消したりしないでください。
- *製造番号が読めなくなる位置に、ステッカーやラベル類を貼り付けしないでください。修理の際に支障が有れば、サービスセンターで破棄します。

販売元：



株式会社エクセリ
(代理店届出番号C1909977)
東京都中央区日本橋浜町2-30-1 /
大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5
お問い合わせ総合ダイヤル 03-3662-0551
URL:<https://www.exseli.com/>

PS0808A
FNEH-NG